

富士通のLinuxソリューション先進事例 長野大学

Linuxをベースに全学ポータル・システムを構築し、学生サービスの向上を実現

少子化で18歳人口が減少を続けている現在、多くの大学は、ITを戦略的に活用して「大学サバイバル時代」を乗り越えようとしている。長野大学では、全学情報ポータル・システムを構築し学生の利便性向上に役立てている。この新しい学生サービスのプラットフォームでは、安定稼働、セキュリティ、TCO削減の3つの要件を満たすOSとしてLinuxを選択。システム構築にあたっては、コスト・パフォーマンスの高い富士通のIAサーバ「PRIMERGY」を使って、高信頼性Linuxシステムの構築を実現した。



長野大学 情報システムセンター長
谷口 道興氏



長野大学 情報システムセンター事務長
吉岡 清氏

ユーザー・プロフィール



長野大学
キャンパス：〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1
TEL.0268-39-0001 FAX.0268-39-0002
URL <http://www.nagano.ac.jp>

学部：産業社会学部、社会福祉学部
 特長：産業社会学部では、21世紀の社会を担う創造的で個性豊かな卒業生を世に送り出すために、インターンシップをはじめとする将来の職業を見据えた教育カリキュラムを充実させている。同学部産業情報学科では、経営や情報の4コースを用意し、IT時代・高度情報化社会に対応できるITを知る経営者、経営を知るシステムエンジニアを育成している。社会福祉学部では、福祉と医療の最前線で活かせる実践力の養成をめざしている。また社会福祉学部が用意している9コースのうち、情報バリアフリーコースでは、情報システムや情報機器の利活用を通じて、円滑な社会福祉サービスの利用を促進。高齢者や障害者の情報取得・発信を支援する専門家を養成している。

学生のPC1人1台時代が到来 ポータルで学生サービス向上を目指す

長野大学の魅力のひとつは、オープンな校風である。長野県で唯一、4年制の社会福祉学部を持つ総合大学であるだけに、障害者や留学生に対しても広く門戸を開放。学生が利用するシステムはアクセシビリティを配慮するなど、すべての学生が同じように学べる環境づくりに取り組んでいる。

情報教育にも積極的だ。学内には、教室から学生食堂にいたるまで無線LAN環境を実現している。また、学内に

ある約150台のパソコンは全学生に開放されており、ユビキタス環境も実現されている。学生は入学と同時に無線LANを装備したパソコンを所持し、講義やコミュニケーションの場面で活用している。

もうひとつ、教職員の間に、学生の学ぶ気持ちをきめ細かくサポートしようという気持ちが浸透しているのも長野大

学の特長だ。

「学生に求められてからやるのではなく、ニーズを先取りし、他大学に先駆けてサービスを形にするように心がけています」と、長野大学 情報システムセンター事務長 吉岡 清氏は話す。

UNIXのノウハウを活かし 信頼性とTCO削減を 両立させるためにLinuxを採用

せっかく1人1台のパソコン環境が実現しつつあるのだから、講義のみで利用するのではなく、学生が快適にキャンパスライフを送れるようなサービスがないかと長野大学情報システムセンターでは考えた。

「まず、大学に来なくても、休講や補講の情報を入手できる仕組みを作ろうと考えました。学生が時間をかけて登校したら休講だったというのでは、学ぶ意欲がそがれてしまいますからね」と長野大学 情報システムセンター長 谷口 道興氏は語る。

2002年、長野大学は、全学情報ポータル・システムの構築を開始した。学生一人ひとりに、自分が登録した講義についての休講/補講情報を提供するため、学籍システムとも連動している。

ポータル・システムの基盤として、富士通の大学向けポータル・サイト構築システム「Campusmate/Portal」を選定した理由のひとつは、Linux上で稼働するアプリケーションであったからだ。

長野大学は、商用インターネットが普及する以前からインターネットの前身となる計算機ネットワークの研究に参画しており、1980年代半ばにはすでに「nagano.ac.jp」のドメインを取得して、世界中の研究者とコミュニケーションしてきた。当時の計算機ネットワークと言えばUNIXオンリーであり、学内には長年にわたって高度なUNIX文化が根付いてきたのである。

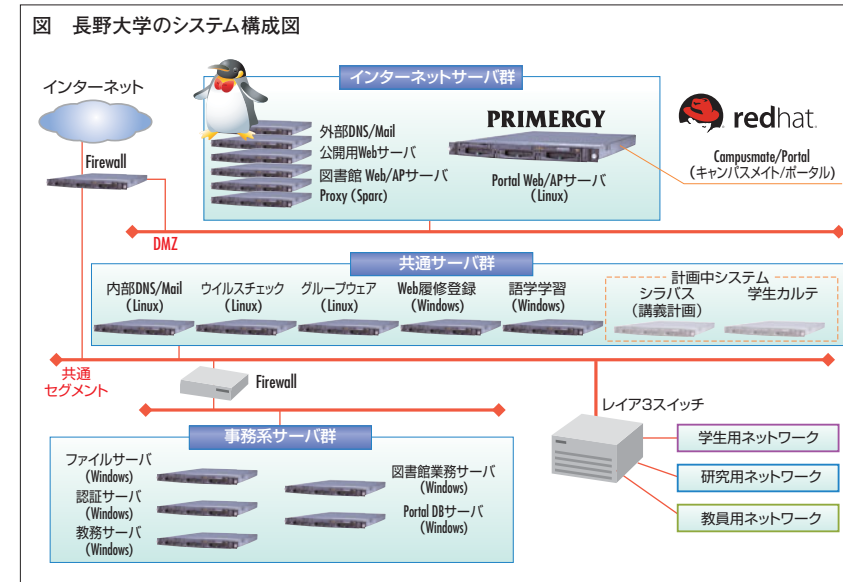
講義に使う教育システムそのものもUNIXベースで構築してきた。多数の端末を接続するネットワーク・システムを高い信頼性のもとに稼働させ、安定した教育環境を実現するには、UNIXを選択するのが自然な流れだったからだ。2001年、教育システムを刷新するにあたっては、UNIXからLinuxへの移行を決断。以後のシステム構築においては、UNIXの高信頼性をより低い予算で実現できるOSとしてLinuxを標準的に採用してきた。

富士通のLinux技術を結集し、 信頼性の高いプラットフォームを構築

Linuxベースの全学情報ポータル・システムは2003年4月にサービスを開始した。学生は、履修している講義の時間割を確認できる「マイ時間割」など、自分専用の個人ポータルを利用できるようになった。休講/補講/試験スケジュールといった情報も、プッシュメールで配信される。

個人ポータルは、携帯電話でも利用可能だ。また、カーソルを移動するだけで文字を音声で読み上げる機能もあるため、視覚障害を持つ学生でも楽に利用できる。

2004年4月には、履修登録も個人ポ



ータルからできるようになる。図書館検索、講義資料の公開・ダウンロードなどのサービスも予定している。

こうした新サービスの可能性に満ちた環境作りには、富士通のLinux技術が活かされている。富士通は、メインフレームやUNIXで培ってきた技術力とノウハウを結集して、Linux環境でも、メインフレームと同等の信頼性を実現しようという取り組みを重ねてきた。日本企業として初めて米国レッドハット社と提携[®]し、販売やサポートなどの包括的な活動を共同で展開しているのはその現れだ。また、先進のIntelプロセッサを搭載したIAサーバ「PRIMERGY」において、1999年3月からLinuxのサポートを開始。すでに5年の長きにわたって、Linuxを安定稼働させてきた実績を持つ。全

学情報ポータル・システムの構築にあたっては、安定稼働において評価の高いPRIMERGYを活用することでシステムのTCOを削減しつつ、安定したシステム構築を実現できた。

「今後はアンケートや住所変更などの各種届も個人ポータルから送信できるようにして、学生サービスの向上を図りたい」と谷口氏。長野大学では、このポータル・システムを基盤にしたアイデアが目白押しだ。

※2003年5月8日の富士通およびレッドハット社のプレスリリースによる

お問い合わせ先

富士通株式会社
プラットフォームソリューションセンター
プロダクトマーケティング統括部Linuxビジネス推進部
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 (汐留シティセンター)
TEL 03-6252-2652 FAX 03-6252-2949
URL <http://software.fujitsu.com/jp/linux/>



THE POSSIBILITIES ARE INFINITE